

製品名: WBSCR11 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19871**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	106kDa

抗原情報

遺伝子名	GTF2IRD1 GTF2IRD1; CREAM1; GTF3; MUSTRD1; RBAP2; WBSCR11; WBSCR12; General transcription factor II-I repeat domain-containing protein 1; GTF2I repeat domain-containing protein 1;
別名	General transcription factor III; MusTRD1/BEN; Muscle TFII-I repeat do
遺伝子 ID	9569.0
SwissProt ID	Q9UHL9
免疫原	抗血清はヒト GTF2IRD1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

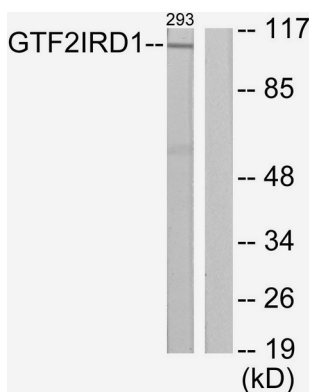
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、5つのGTF2I様リピートを含み、各リピートは潜在的にヘリックス・ループ・ヘリックス (HLH) モチーフを有する。他のHLHタンパク質と相互作用し、転写因子として機能するか、網膜芽細胞腫タンパク質の制御下で正の転写調節因子として機能する可能性がある。この遺伝子は頭蓋顔面の発達と認知発達に関与しており、その変異は7q11.23における複数の遺伝子の欠失によって引き起こされる多系統発達障害であるウィリアムズ・ボイレン症候群と関連付けられている。選択的スプライシングによって複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq提供、2010年11月]、発達段階：筋線維の多様化の時期に、発達中および再生中の筋肉で高発現している。疾患：GTF2IRD1のハプロ不全は、ウィリアムズ症候群 (WBS) というまれな発達障害にみられる特定の心血管系および筋骨格系の異常の原因である可能性がある。これは、染色体バンド7q11.23の遺伝子が関与する連続遺伝子欠失症候群である。ドメイン：N末端側半分は活性化活性を持つ可能性がある。機能：細胞周期の進行と骨格筋の分化に関する転写調節因子である可能性がある。核内への常在を妨げるか、転写活性化を阻害することで、GTF2Iの転写機能を抑制する可能性がある。筋形成中および再生中の筋肉において、遅筋線維のタイプの特異性に寄与する可能性がある。トロポニンI遅筋線維エンハンサー (USE B1) に結合する。HOXC8の初期エンハンサー由来のEFG配列に特異的かつ高い親和性で結合する。PTM：DNA損傷時にリン酸化される (おそらくATMまたはATRによる)。類似性：TFII-Iファミリーに属する。類似性：5つのGTF2I様リピートを含む。サブユニット：網膜芽細胞腫タンパク質 (RB1) のC末端と相互作用する。組織特異性：成人骨格筋、心臓、線維芽細胞、骨、胎児組織で高発現する。試験した他のすべての組織では低レベルの発現を示した。

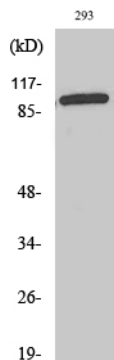
研究分野

基礎転写因子;

画像データ



GTF2IRD1抗体を用いた293細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



WBS CR11ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は1:20000に希釈した。

